

第3学年 体育科学習指導案

鹿児島市立山下小学校
2組 計28人(男子15人, 女子13人)
指導者 池水 大介

- 1 単元 みんなでつくろう!セストボール(ゴール型ゲーム)
- 2 単元の目標

- ボールを持ったときにゴールに体を向け、パスかシュートを選択できるとともに、パスやシュートがしやすいように空いている場所に素早く動くことができる。【技能】
- 「みんなが楽しめるセストボールをつくりたい」「ルールやコートの工夫を生かしてゲームに勝ちたい」などの願いをもって進んで運動に取り組んだり、規則を守り勝敗を素直に受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりしながら練習やゲームに挑戦することができる。【態度】
- みんながもっと楽しめるようにルールやコートを工夫したり、その工夫を生かして勝つための簡単な作戦を考えたりすることができる。【思考・判断】

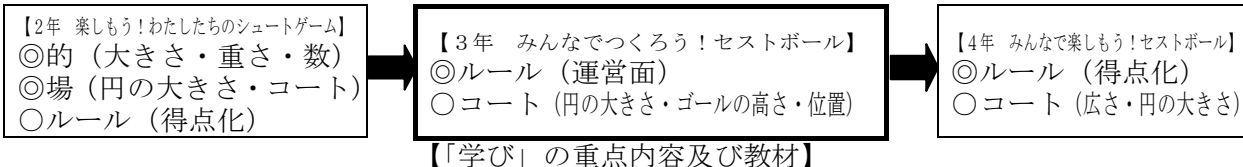
3 単元について

(1) 単元の価値

これまで子どもたちは、「楽しもう!わたしたちのシュートゲーム」の学習を通して、場やコート、ルールの工夫を行いながら、投げる、捕るといった技能を高め、得点し合って勝敗を競うゲームの楽しさを味わってきている。そして、自分たちに合った場やコート、ルールを工夫して、「クラスみんなで楽しめるゲームをつくりたい」「シュートをたくさん決めて勝ちたい」などの欲求もっている。

そこで、ここでは一人一人がシュートを決めてゲームを楽しむことができるように、ルールやコートの工夫を行っていく。その中で、パスやシュート、空いている場所を見つけて素早く動くといった技能を高め、簡単な作戦を考えたり選択したりしながら得点し合って勝敗を競うゴール型ゲームの楽しさを味わっていくものである。

この学習は、クラスみんなが楽しめるルール(得点化)や簡単な作戦などを工夫しながらゲームをする楽しさを味わう「みんなで楽しもう!セストボール」の学習へと生かされていく。



(2) 運動の特性と教材について

「セストボール」の楽しさは、360度からシュートが可能なゴールに向かってパスでボールを運び、シュートを決めて勝敗を競い合うところにある。また、ドリブルを用いないので、ボール操作は易しく、ボールを持たないときの動きを工夫しながらみんなで協力してボールを運ぶ楽しさを味わうことができる運動である。

第3学年にとっての「セストボール」は、「勝ちたい」「シュートを決めたい」といった一人一人の願いをもとに自分たちに合ったルールやコートを工夫しながら、クラスみんなが楽しめるゲームをつくっていくことができる運動である。また、ゲームを行う中で、パスやシュート、空いている場所へ素早く動くといった技能を高めることができる。そして、全員がシュートを決めて勝敗を競い合う楽しさを味わうことができる運動である。

(3) 本単元における「学び」を見つめ、「学び」を生かす子どもの姿

本単元では、試しのゲームを行う中で、前学年の「学び」を想起する場を設け、「みんなが楽しめるセストボールをつくりたい」という願いをもち、ルールやコートを工夫していくという課題をつかむことができるようにする。そして、ゲームを進めていく中で、クラスみんなが楽しむためのルールやコートを工夫・発見していく。さらに、その工夫を生かして勝つための方法を見出したりゲームに生かしたりしながら、「セストボール」の楽しさを味わい深めていく子どもの姿を目指すものである。

(4) 子どもの実態（平成21年9月18日実施）

項目	回答（対象28人，数字は人数）							
1 シュートゲームへの興味・関心	・好き(23) ・どちらかといえば好き(3) ・どちらかといえば嫌い(1) ・嫌い(1)							
◇理由	○シュートが決まったときうれしい(9) ○パスをたくさん回す(8) ○みんなで攻めたり守ったりするのが楽しい(4) ○ルールを工夫できる(2) ○体を動かすのが気持ちいい(1) ○試合に勝つとうれしい(1) ●ゴールが高くてシュートが入りにくい(2) ●ボールがこわい(1)							
2 単元のめあて（複数回答）	・シュートをたくさん決める(14) ・パスをたくさん回す(5) ・作戦を工夫して勝ちたい(3) ・ルールを工夫して楽しむ(2) ・コート工夫して楽しむ(2) ・ボールにたくさんさわる(2)							
3 みんなが楽しめるルール・コートの工夫（複数回答）	・ゴールの高さを工夫する(11) ・コートの広さを工夫する(6) ・点数を工夫する(7) ・全員にパスを回す(5) ・○秒以内にパスやシュートをする(3) ・ボールを持って○歩まで歩ける(2)							
4 山なりのシュート	◎	7	○	9	△	8	●	4
5 3mパス（投）	◎	8	○	12	△	5	●	3
6 3mパス（捕）	◎	5	○	9	△	11	●	3

セストボールへの興味・関心については、「シュートが決まったときうれしい」「みんなでパスをつないで攻めていくのが楽しい」「ルールを工夫して楽しむことができる」などの理由から、好きだと答えている子どもが多い。しかし、「ゴールが高くてシュートが入りにくい」「ボールがこわい」などの理由で、嫌いだと答えている子どももいる。単元のめあてについては、シュートを決めたりパスを回したりして楽しむことや、ルールやコート、作戦を工夫しながらクラスみんなで楽しめるセストボールをつくっていききたいという願いをもっていることが分かる。コートについては、シュートやパスの機会が増えみんながもっと楽しめるように、ゴールの高さやコートの広さに関する工夫を挙げている。ルールについては、得点に関する工夫や、ボール保持の秒数や歩数制限などに関する工夫を挙げている。シュートやパスの技能については、特にパスを受ける技能についての個人差が大きいことが分かる。

4 指導に当たって（研究の視点との関連）

【指導過程】

- 「つかむ」過程では、試しのゲームを行ったり、2年生でのシュートゲームの経験を想起する場を設けたりすることで、「ルールやコートを工夫しながら、みんなが楽しめるセストボールをつくっていこう」という共通課題を設定する。
- のびのびタイムでは、「シュートゲーム」や「トライアングルパスゲーム」などを行うことで、素早くパスを回したりシュートしたりする技能を高めることができるようにする。
- チームタイムでは、前のゲームの結果や原因を振り返ったり、「3対2セストボール」などを練習に取り入れたりすることで、新しいルールやコートの工夫を生かすための動き方や攻め方を、次のゲームに生かすことができるようにする。

【場・コート，ルール，作戦】

- 「挑戦するⅠ」の過程では、「ゴールの高さ」「ゴールエリアの広さ」などのコートの工夫や、「歩数制限」「ボール所持時間制限」などのルールの工夫を行うことで、全員がボールに触れたりシュートを決めたりすることができるようにするとともに、みんなが楽しめるゲームの行い方を知ることができるようにする。
- 「挑戦するⅡ」の過程では、「全員シュートボーナス」「女子シュートボーナス」など得点化の工夫を行ったり、簡単な作戦を選んだり工夫したりすることで、全員がセストボールの楽しさをより味わうことができるようにする。
- 子どもたちが、工夫・発見したコートやルールを掲示しておくことで、ルールやコートについての話合いに活用したり、子どもたちが、ルールやコートを確認したりすることができるようにする。

【評価活動】

- 「ルールやコートの工夫を生かしてゲームに勝つことができたか」と視点を明確にして前のゲームの結果とその原因を振り返ることで、次のゲームに生かすことができるようにする。